

1 学習指導改善調査の結果と考察

国語では、ほぼ県平均あるいはそれ以上の結果であったが、算数は県平均を下回る学年もあった。

- 解答を記号の中から選ぶ問題は、正答率が高い。
- 全体的に記述問題に苦手傾向があるが、時数制限のある記述問題では、4年生は経験が少ないためか県平均を下回ったが、5年生ではほぼ県平均と同じ、6年生では県平均を大きく上回った。このような問題に慣れてきたと考える。
- 話のまとまりで改行し、段落を意識して書くことができている。昨年度から「書く」ことに力を入れてきた成果と考える。
- ▲ 解答（キーワード）を本文の中から選び出す問題の正答率が低い。
- ▲ 複数の資料の読み取りが不十分であるため、その内容をまとめ、活用して文章を書くことが苦手である。
- ▲ 算数では、理由を記述する問題の正答率が低い。「算数用語」を使って簡潔に書き表すことが苦手である。

2 今年度の学習指導改善調査を受けての取組

上記の結果を受け、各学年とも分析と課題解決の計画を立て、実践する。

学力補充・定着を計るための計画（重点化する）

	国 語		算 数	
	(領域)指導単元 及び時間	指導事項・留意点	(領域)指導単元 及び時間	指導事項・留意点
4 年	(読む) アップとルーズで 伝える ⑧	目的に応じて、中心となる語や文を捉えて段落相互の関係や事実と意見との関係を考えて文章を読む。	(図形) 直方体と立方体 ⑭	直方体や立方体の構成要素を確かめ、展開図を書く。 図形の構成要素をていねいに整理しながら、頭の中にイメージを持たせる。
	(書く) 「仕事リーフレットを作ろう」⑦	文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成する	(量と測定) 面積 ⑩	いろいろな形や大きさの広さに目を向け、工夫して面積を求める。
	その他（指導法の改善など） ○文章の中心をしっかりと読み取らせる。（キーワードを落とさずに要約させる。）		その他（指導法の改善など） ○正方形にぴったり入る円の直径が分からない児童が多かった。実際に紙でやってみるなどの	

	○文の組み立て表をもとに作文を書かせる。	操作的な活動を取り入れながら、ていねいに指導する。 ○算数用語（説明に必要なキーワード等）を使って表現させる。	
5 年	記述問題 授業や すくすくタイム	時間内に指定文字数以上書く。 条件に合った内容を書く。	式と計算 授業や すくすくタイム
			分数の意味（いろいろなパターンで…円、帯、水の量など） 図形 授業や すくすくタイム
	その他（指導法の改善など） ○書き始める前に、文の構成をしっかりと考え、段落を意識して書く。 ○文の組み立て表をもとに作文を書かせる。	その他（指導法の改善など） ○理由を問う問題を多く解かせ、書き方に慣れさせる。 ○算数用語（説明に必要なキーワード等）を使って表現させる。	
6 年	記述問題 作文単元 授業	段落構成ができていない子に、再度作文の書き方（構成等）を指導する。	（量と測定） 授業や すくすくタイム
			既習事項を使って多角形の面積の求め方を自分なりにもう一度考えさせる。特に三角形では、いろいろな形の底辺と高さを見つける学習を再度行う。 ○問題の意味が分からない小屋考え方を文章に表すことができない子が多かったので、文章問題で考え方（考えの道筋）をノートに書くような授業を展開する。 ○算数用語（説明に必要なキーワード等）を使って表現させる。

3 校内研修とのかかわり

当校の研究主題

【かかわり合い、共に学び合って、学力を向上させる】

自分の思いや考えを豊かに表現する子どもの育成

学習指導改善調査の結果を踏まえ、上記研究主題のもと、校内研修に取り組む。表現力の中でも、特に書くことに重点を置き、教科を国語に絞って実践を積む。

また、毎日のノート指導を充実させることが表現力を伸ばすためには大事であると考え、日々の授業でノート指導に力を入れてきた。

年度始めにノート指導の職員研修を行い、ノートのとり方、使い方について共通理解をする。担任だけでなく、入教の授業で教員が代わってもいつもと変わらず、はじめに日付と課題を◎で書き、授業の最後に振り返りとして、！（分かったこと）や♡（感想）、？（疑問）などを書くということを経験して行く。

その結果、はじめは書くことに抵抗があった子どもも、毎日の積み重ねで、書くことに抵抗がなくなってきた。一連の学習の流れの中で、自分の考えや思いを短時間で書けるようになってきている。子どもアンケートでは、約80%の子どもが自分の考えをよく書けたとしている。教師も子どもたちの振り返りを読むことで、その時間の学習内容の理解度・定着度が分かり、授業改善に生かしている。さらに、ノート指導を通して教師は以前よりも1単位時間のねらいや課題を意識し、ねらいに沿って課題を精選し、子どもたちに提示するようになってきた。

その他にも、書くためにはしっかりと読み取れることが大事であるので、朝学習や家庭学習、春・秋の読書旬間等で読書を奨励する。読書に親しむことで、少しずつ、長文問題にも抵抗なく取り組むことができるようになってきている。

叙述をもとに豊かに朗読できる子供を目指して

～ 4年国語 「ごんぎつね」における実践 ～

授業者 4年 八巻 誠

書くことを積極的に取り入れながら、表現力を高める私の主張

物語文では、場面の美しい描写や、話の展開のおもしろさを味わいながら、楽しく学習し、心に残る学習としたい。そのために「1/2 成人式記念 朗読CDを作ろう」と投げかけ、叙述をもとに想像しながら豊かに朗読できるようになることを目標に、読み取りを深めさせる。

「書く」ことは、一人一人の読みを確かにする。それを友だちと交流し合うことで、より豊かに読み取れるようになる。しかし、本単元の主眼は「読み」であるので、単元全体の見通しをもちながら、意図的に書くことを取り入れていきたい。



支援のポイント

- 朗読CDを作るという、目標をもたせる。
- 書く活動を、より豊かに読み取るための手立てとする。

授業の実際

本時のねらい：ごんの失敗とさらに償い続けようとするごんの気持ちを叙述をもとに想像する。

1 朗読CDを作るという目標をもたせたこと。

(1)「どう読むか」を常に意識させることができた。

単元の最初の時間に「どんな朗読CDにしたいか」を聞いた。

- ・つかえない(8名)
- ・人物になりきる(5名)

などの意見が出された。

- ・つかえないで読むために、繰り返し練習する。
- ・なりきるために、人物の気持ちを読む。

などの方策を考えさせる活動から、読むことについての目標をもたせることができた。

(2)想像したことを朗読に生かそうとする気持ちを持続させることができた。

終末に「学んだことを基に朗読する。」という活動を毎時間行った。本時では、ごんの償いの仕方が、イワシを放り込んだ時と栗や松茸をそっと置いてきた時では、全然違うことを読み取らせた。ごんの償いの気持ちが、どんどん純粹で強くなっている場面なので、それを反映した朗読を2名の子供にさせた。



ここはこんなふうに読みたい

2 書く活動を、より豊かに読み取るための手立てと考えたこと。

(1) 書くことで、一人一人に考えさせることができた。

本時では、意図して書かせたのは、次の2つの場面である。

- ・文章に線を引き、想像したことをどのように朗読に反映させるか、考えさせた。

(例)「そつと物置の方へ回って」(堂々と でも反省して ばれないように)

- ・「兵十にくりや松たけを持っていく時」のごんの気持ちを日記として書かせた。

書くことによって、自分の考えが明確になり、伝えたり、比べたり、ふり返ったりすることが容易にできるようになった。

(2) 日記に書かせることで、心情を素直に表現できた。

教科書の学習の手引き「物語をめぐって話し合おう」という単元に、日記風に書くように示されている。

また、子供も日記は毎日書いており、抵抗無く取り組めるのではないかと考えた。本時で書いて欲しかった内容は次の2点であった。

- ・兵十が喜んでくれるのでは、という期待
- ・明日もいいことをしよう、という決意

ほとんどの子供が、これらの気持ちを含めてスムーズに日記を書くことができた。

(3) 読みが深まったかことを実感させることができた。

授業が始まると同時に本日の学習範囲を朗読する。そして、授業の終末には、学習したことを確認し、それを反映させた朗読をする。そんなパターンで、数時間行った。本時もそのうちの1時間であったが、メモを見ながら、気持ちを込めて朗読することができた。



きっとごんはこんなふうを書くよ

成果

1 子供がやる気をだして取り組んだこと。

教育期の生活目標「深めよう自分の学び」に朗読に関する目標を自主的に設定した。

「ごんぎつねの朗読(人物になりきる、気持ちを込める、つかえない。)

また、それに伴って朗読カードを用意して欲しいと要求されたので配付した。1日1回は家族の前で読み、合計35回という子供も2名いた。とても意欲的であった。

2 朗読が上手になったこと。

冬休みの共通課題に「家族 de 読書」というのがあった。そこには、保護者からの感想が寄せられていた。「本読みが上手になって驚いた。」「弟が大笑いしても、真剣に最後まで読み聞かせてくれた。」率直な感想として、ありがたく受け止めるし、私もごんぎつねの学習を通して、子供の朗読にかける思いが相当強くなったと実感した。

課題

書くことは時間がかかり、板書を写すことに必死だった子供がいたことを指摘された。書かせる時には、何をどの場面でどんなふうにかかせたいかを十分に吟味することが必要である。そしてそれを、子供の中にどう響き合わせるか、これからの大きな課題である。